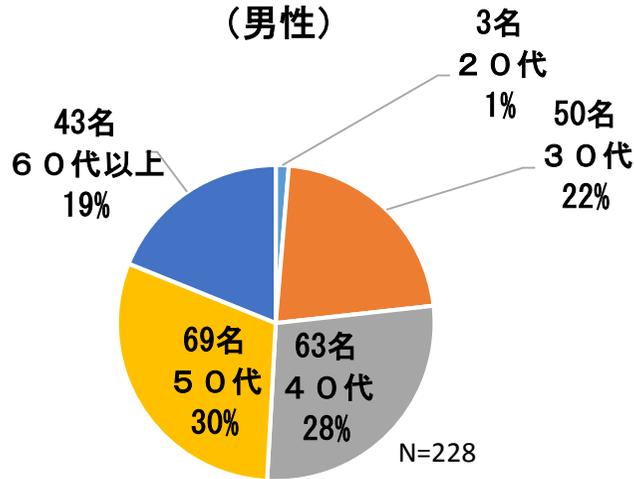


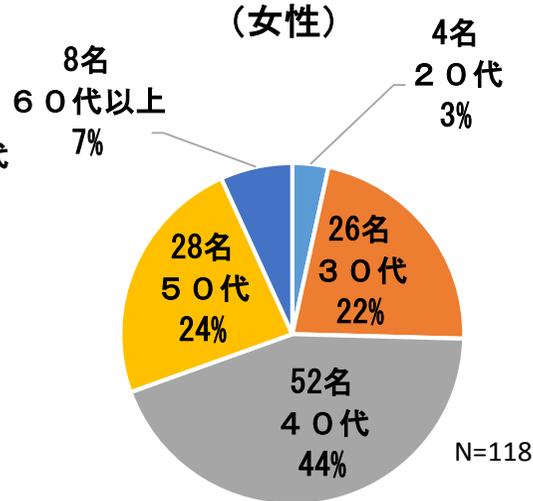
アンケート(教員まとめ) N=367名

教員367名、職員216名の皆様にアンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。ご回答いただいた内容を真摯に受け止め、よりよい研究環境づくりを目指してまいります。

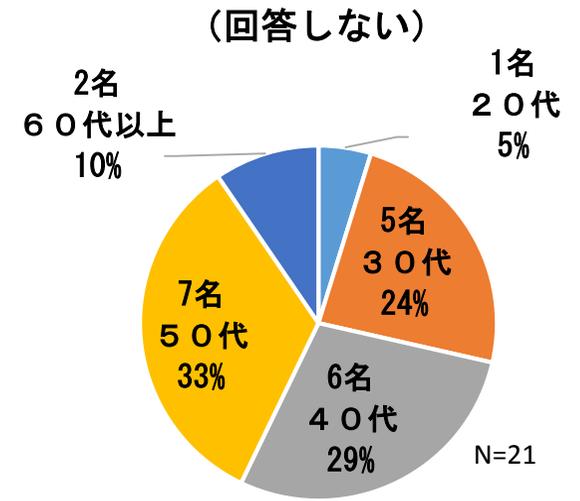
年代



どの世代も同じくらいの割合

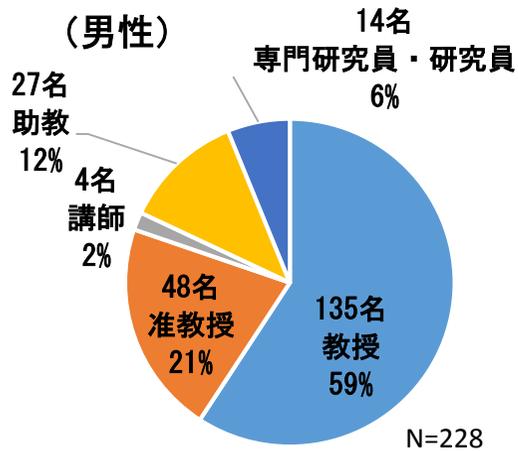


40代女性が多く、30代・50代が同程度

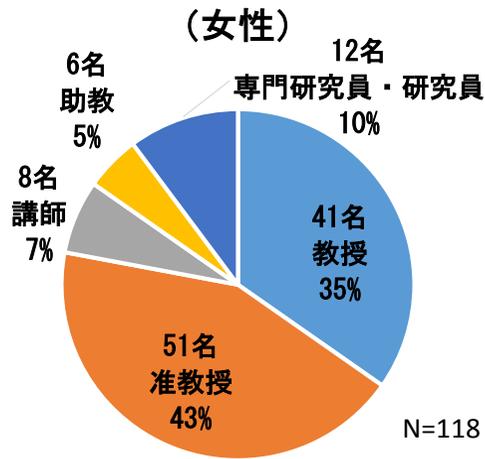


どの世代も同じ割合

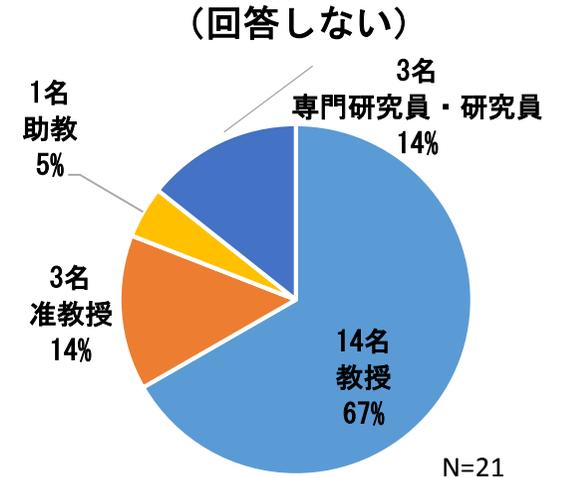
職位



教授が多数



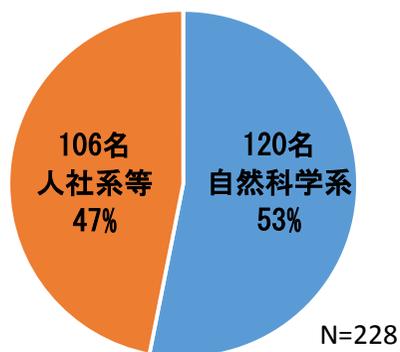
准教授が多数



教授が多数

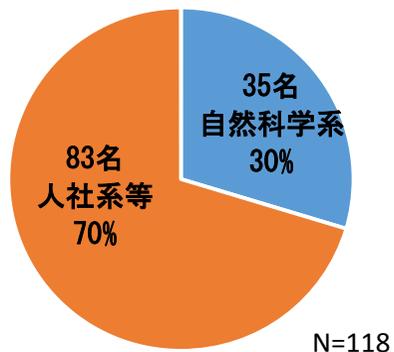
研究分野

(男性)



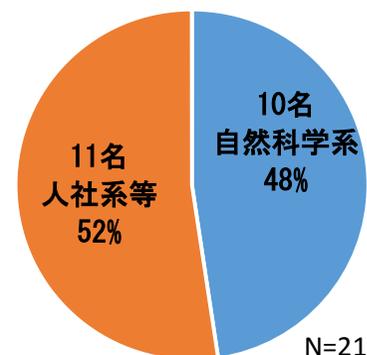
やや自然科学系が多いが、同程度

(女性)



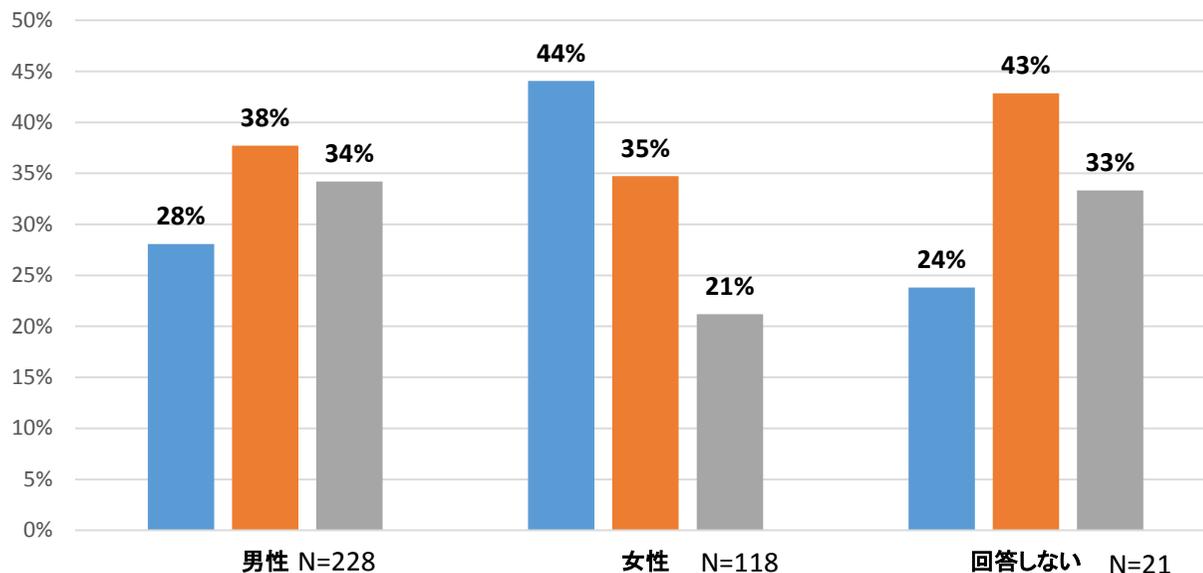
人文・社会科学系等が多数

(回答しない)



自然科学系と人文・社会科学系等が同程度

(1) 立命館大学に男女共同参画を推進する「リサーチライフサポート室」があることについて、あなたはご存じでしたか？



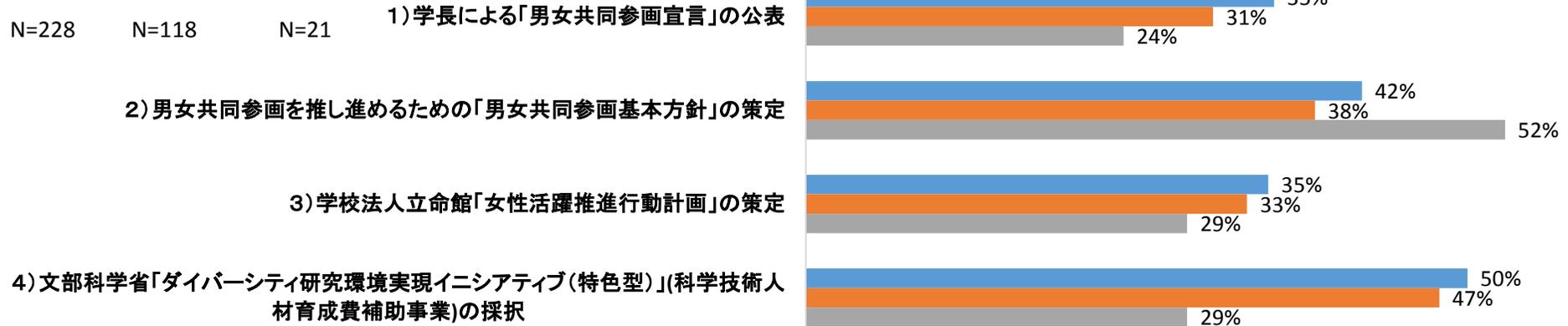
■ 1) 活動内容を知っている ■ 2) 名前だけは知っている ■ 3) 活動内容も組織の存在も知らなかった

男性は「名前だけ知っている」が多数。
 女性は「活動内容を知っている」が多数。
 回答しないは「名前だけ知っている」が多数。
 女性が「活動内容を知っている」割合が高い理由として、現状では、女性教員に支援の焦点を当てていることが考えられる。

(2) 立命館大学の男女共同参画推進に関わって、知っていたものに印をつけてください。(複数回答可)

■ 男性 ■ 女性 ■ 回答しない

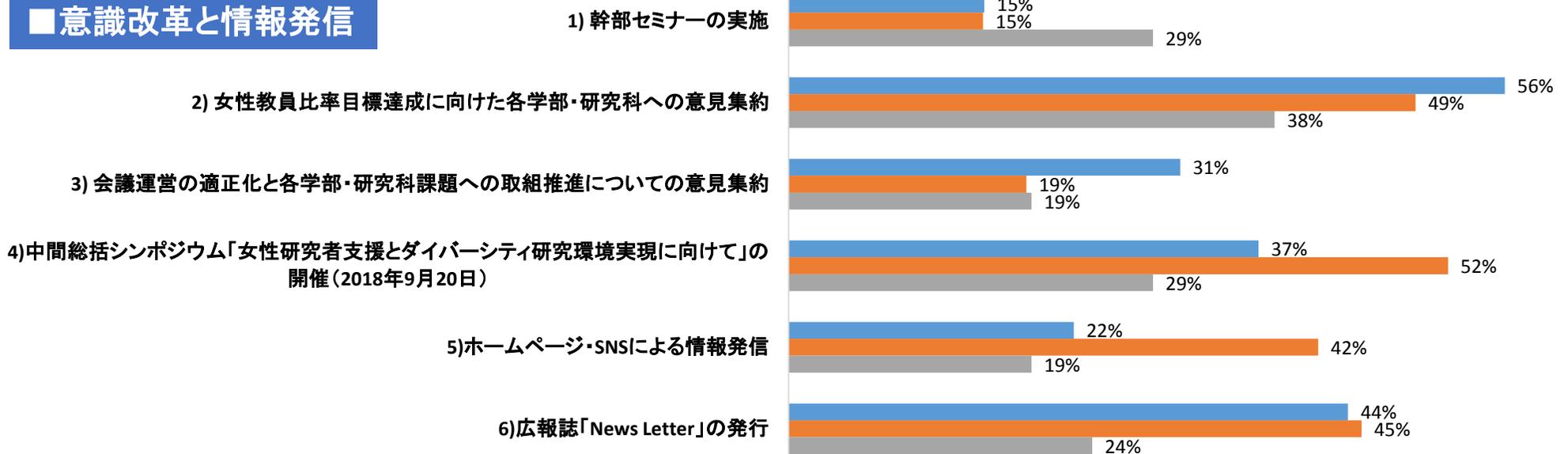
N=228 N=118 N=21



1)~3)については、どの項目においても、男女共に知っていたものは同程度。
4)については、男女共に半数程度となり、他の項目より高い割合となっている。

(3) 立命館大学の男女共同参画推進事業について、知っていた場合は印をつけてください。

■ 意識改革と情報発信



1)の認知度が低く、2)3)については男性の割合が高い。幹部に男性が多いことが理由と考えられる。4)5)は女性の割合が大きく高い。
6)男女共に同程度となっている。ポスティングによる配付の効果があると考えられる。

■女性研究者の採用・上位職登用

■ 男性 N=228 ■ 女性 N=118 ■ 回答しない N=21

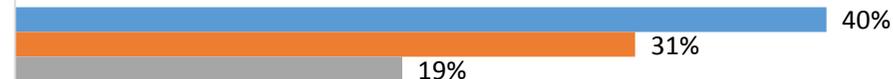
7) 定年退職者ポストの1年又は2年前倒しによる女性枠設定



8) 無期女性教員限定公募の実施



9) 2018年1月女性副学長(ダイバーシティ&インクルージョン担当)



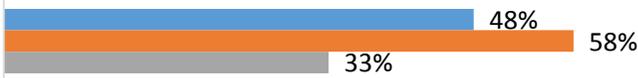
10) 2019年1月女性副総長(研究・学術情報・国際連携・男女共同参画担当)就任



7)~10)は全般的に男性の割合が高い。特に8)の認知度が高い。

■教育・研究と家庭生活との両立

11) 「ライフイベントに関わる研究支援員制度」の導入



12) 衣笠・BKCへの学内保育所設置



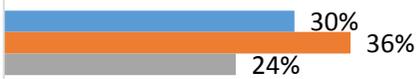
13) 学内保育所の一時保育



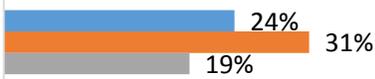
14) ベビーシッター・ホームヘルパー利用補助



15) 臨時託児室



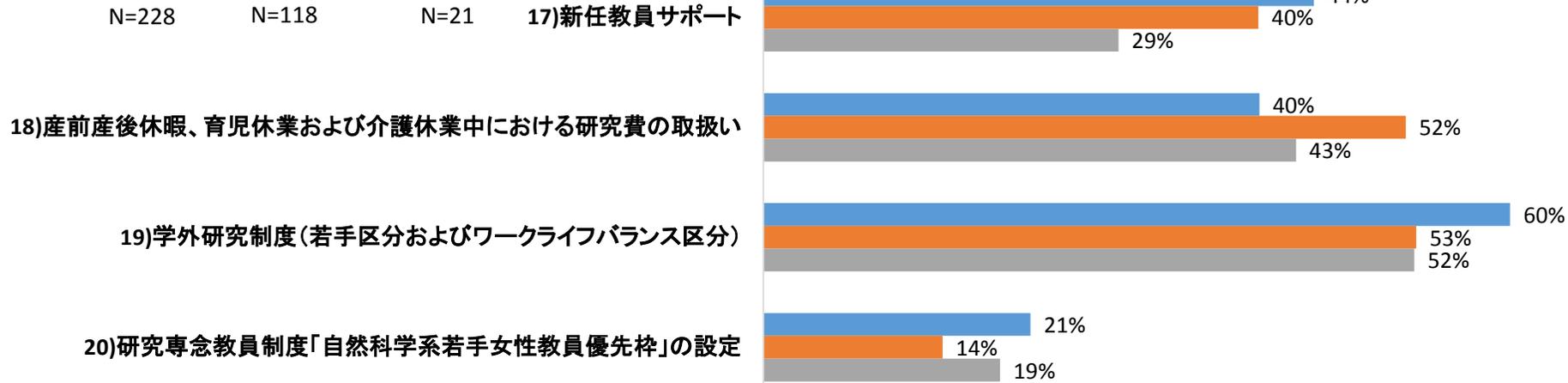
16) 研究費による学会・研究会等参加に伴う臨時的な「託児費用」の執行



11)~16)は、全般的に男性より若干女性の認知度が高い。女性が家事を担っている割合が高いことから支援の必要性を感じ、認知度が高いことが理由と考えられる。13)一時保育は、男女共に同程度となっている。

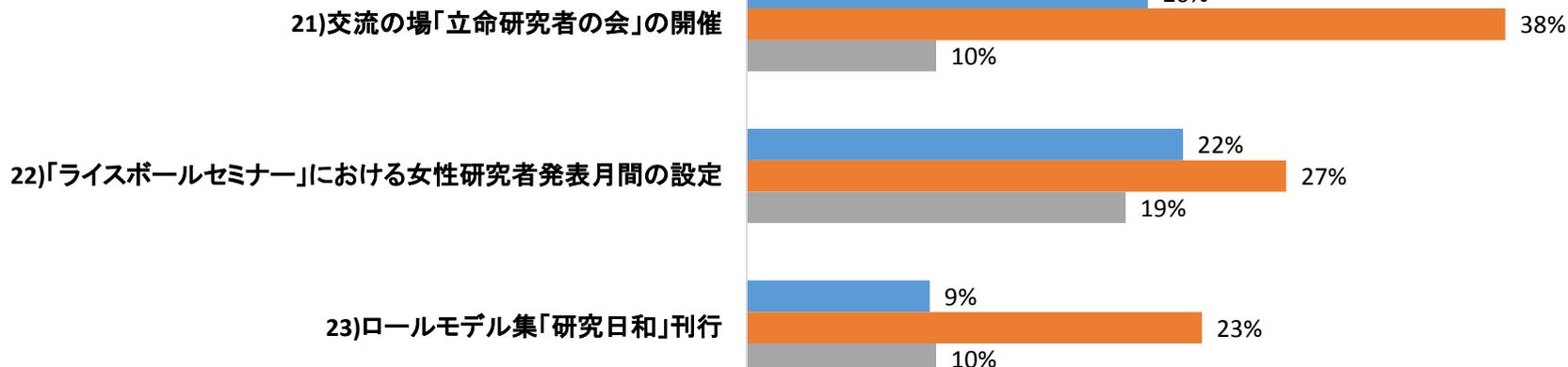
■教育・研究の推進と研究力の向上

■ 男性 N=228 ■ 女性 N=118 ■ 回答しない N=21



17)は男女共に同程度。18)は女性の割合が高く、19)は男性の割合が高く、それぞれ約10%上回っている。20)は全体的に認知度が低い。

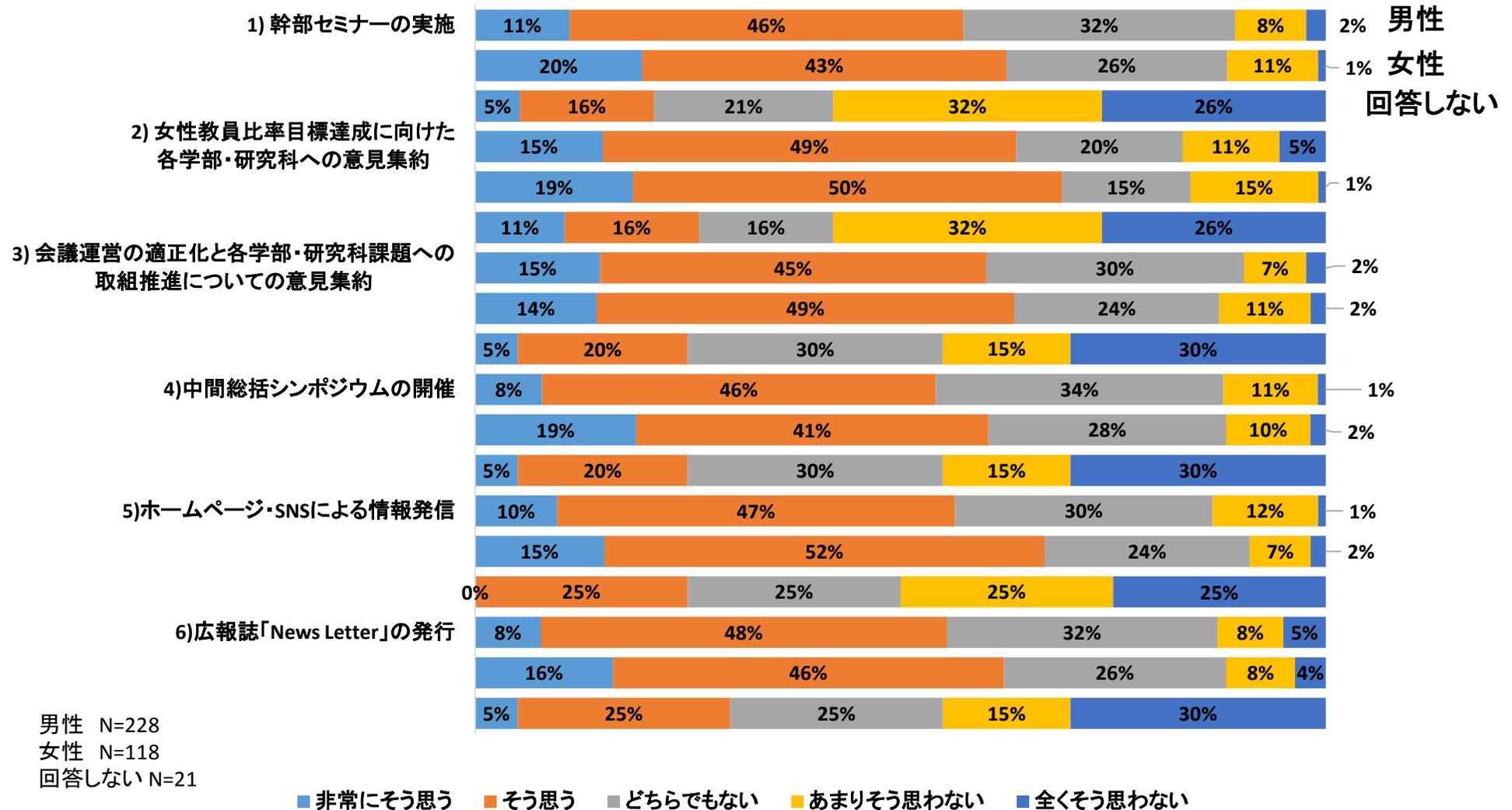
■女性研究者の裾野拡大



全体的に認知度が低く、いずれの項目も女性の認知度が男性の認知度を上回っている。

(4) その事業が立命館大学における男女共同参画の意識向上に効果的かどうか、
あなたの意見に近い箇所に○をつけてください。

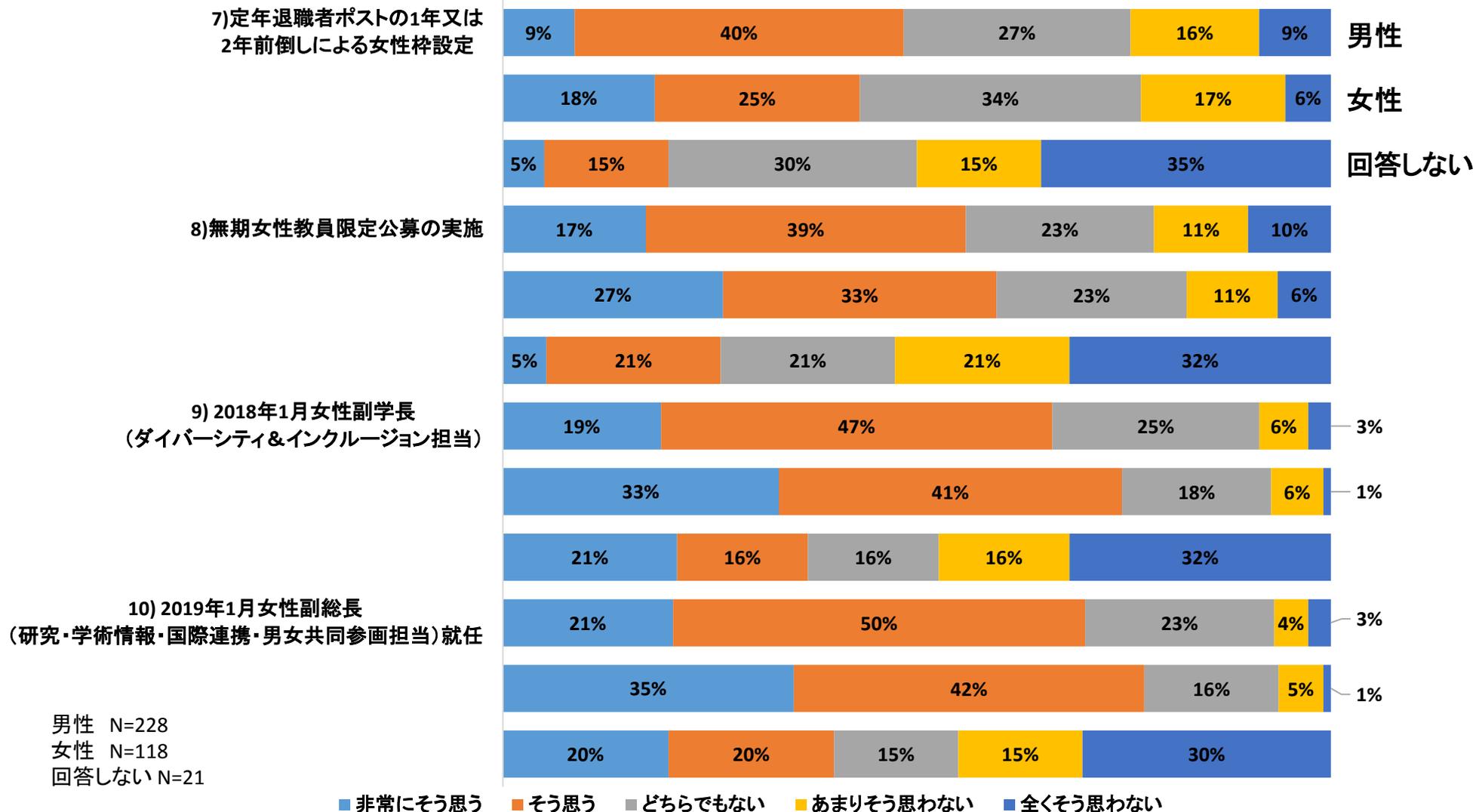
■ 意識改革と情報発信



男性 N=228
女性 N=118
回答しない N=21

どの項目も「そう思う」が高い割合を占めている。次に「どちらでもない」の割合が高く、どの項目も同程度の割合となっている。

■女性研究者の採用・上位職登用

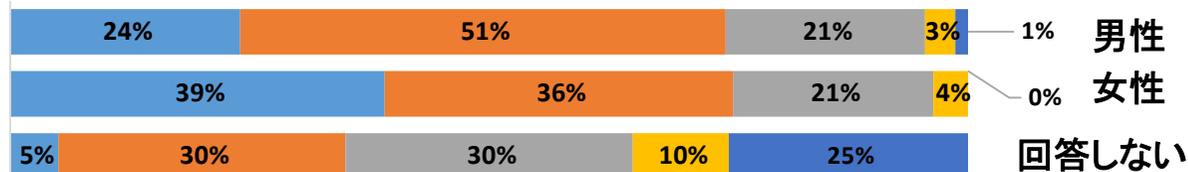


男性 N=228
 女性 N=118
 回答しない N=21

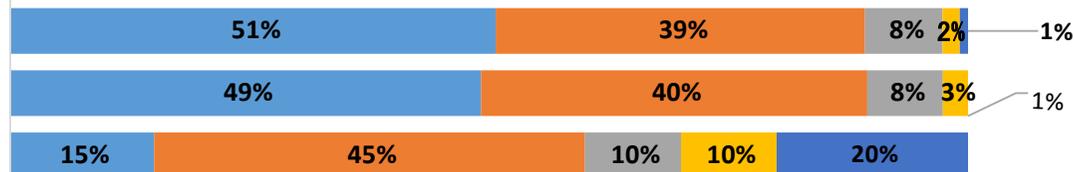
7)8)ポジティブアクションに関して、男性は「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると、約半数が意識改革に効果があるとしている。女性は7)「前倒し人事」について、「非常にそう思う」「そう思う」を合わせて43%、8)「無期女性限定公募」について「非常にそう思う」「そう思う」を合わせて60%となっている。したがって、「前倒し人事」より、「無期女性教員限定公募」の方が意識改革に効果があると答えている。9)10)は、男女共に半数以上が意識改革に効果があるとしており、特に女性の割合の方が高い。

■教育・研究と家庭生活との両立

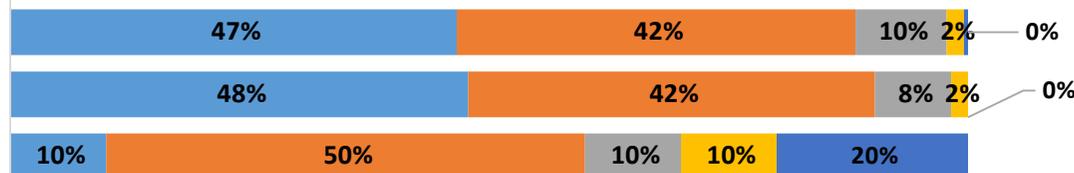
11) 「ライフイベントに関わる研究支援員制度」の導入



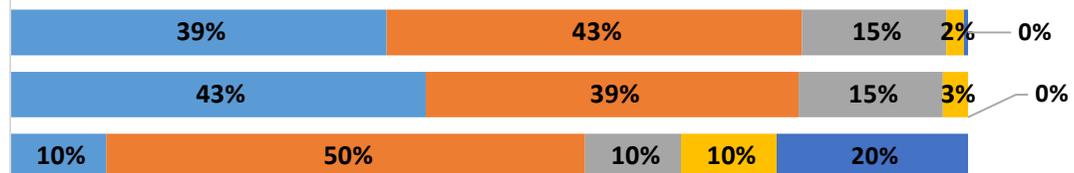
12) 衣笠・BKCへの学内保育所設置



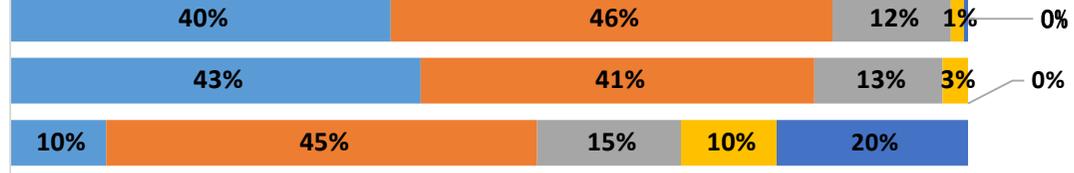
13) 学内保育所の一時保育



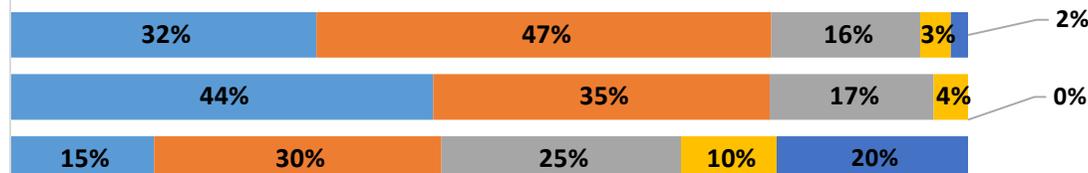
14) ベビーシッター・ホームヘルパー利用補助



15) 臨時託児室



16) 研究費による学会・研究会等参加に伴う
臨時的な「託児費用」の執行



男性 N=228

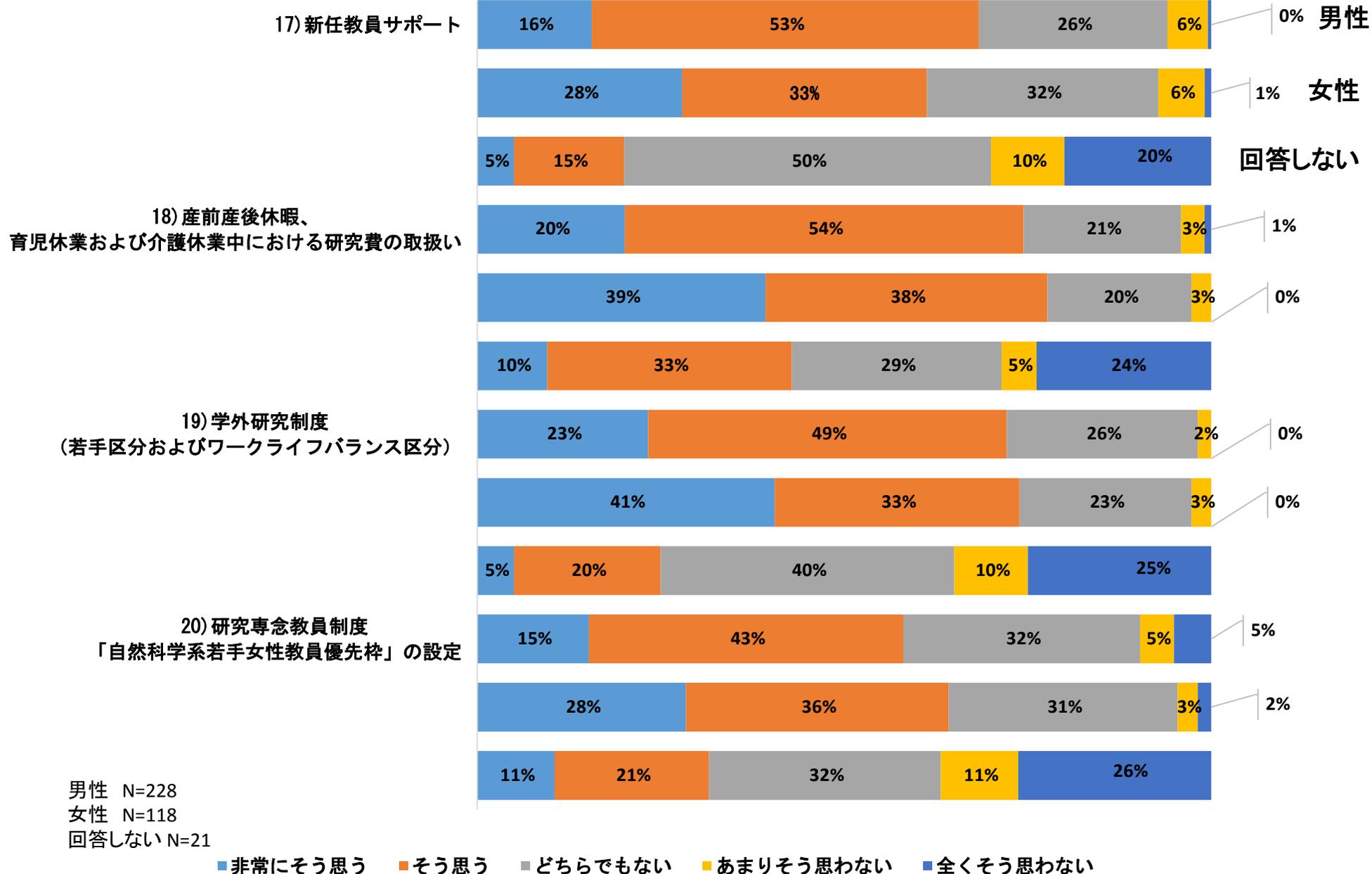
女性 N=118

回答しない N=21

■非常にそう思う ■そう思う ■どちらでもない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

11)~16)については、性別に関係なく、ほとんどの項目で「非常にそう思う」「そう思う」の割合が半数を大きく上回っている。

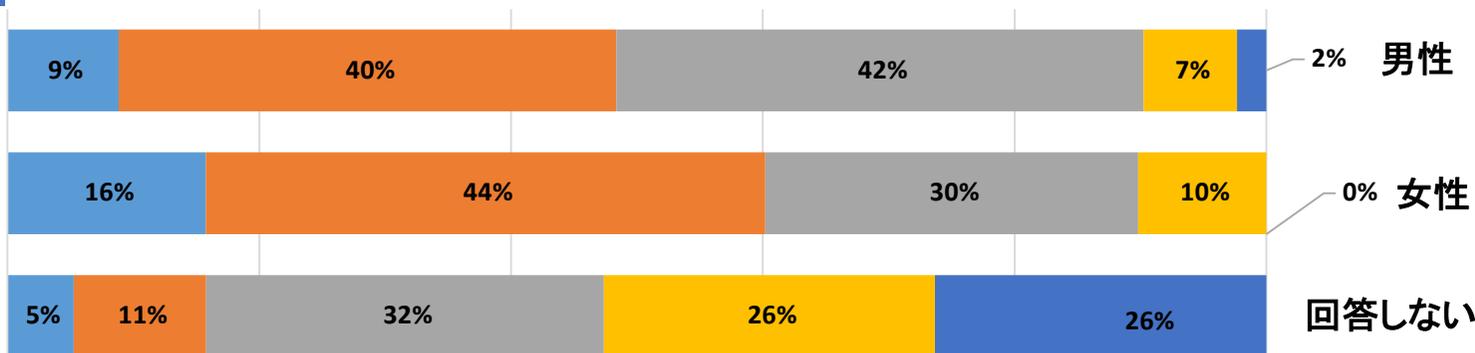
■教育・研究の推進と研究力の向上



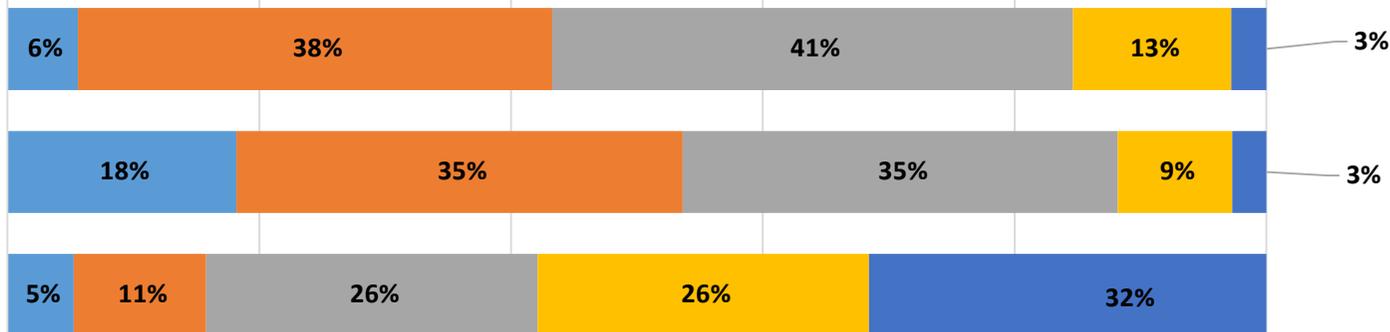
17)~20)では、全般的に「非常にそう思う」「そう思う」の割合が高い。

■ 女性研究者の裾野拡大

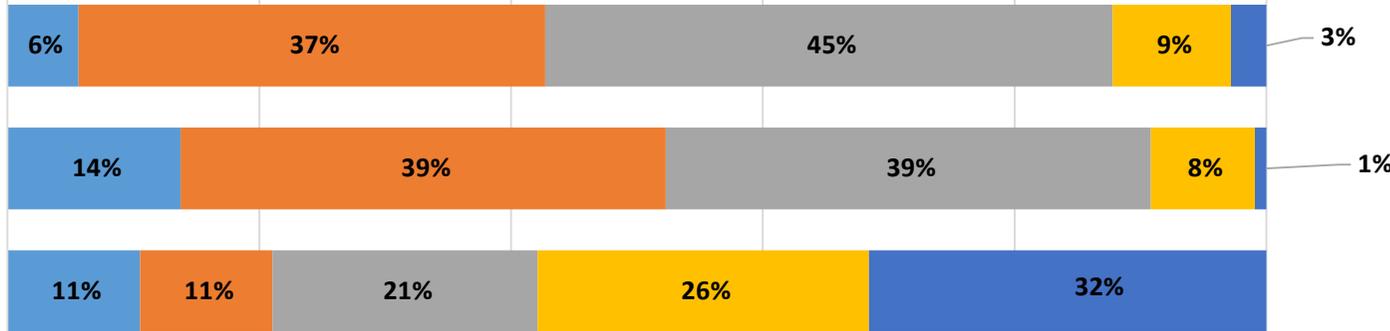
21) 交流の場「立命研究者の会」の開催



22) 「ライスボールセミナー」における女性研究者発表月間の設定



23) ロールモデル集「研究日和」刊行



男性 N=228
女性 N=118
回答しない N=21

■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

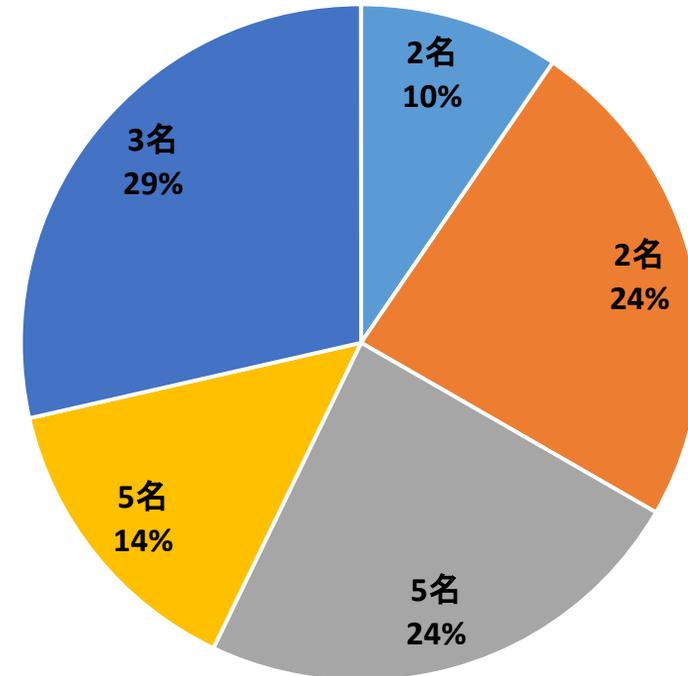
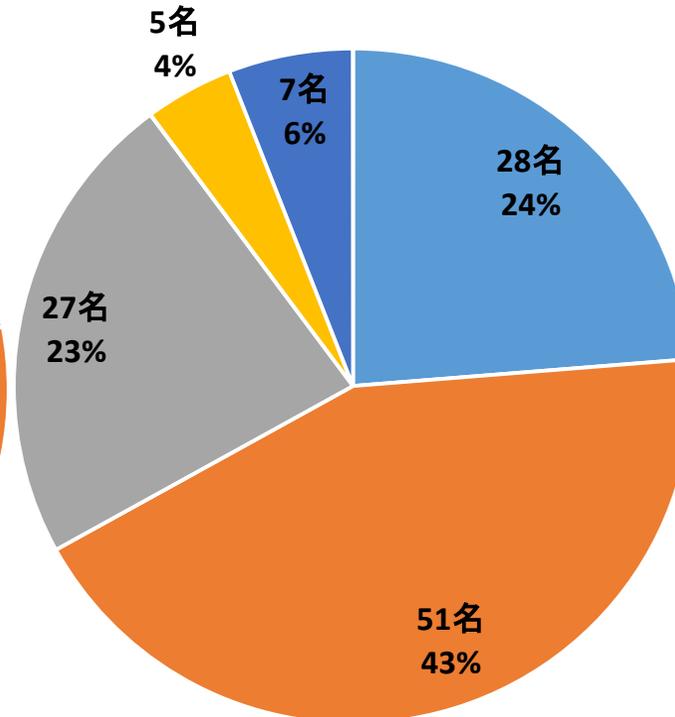
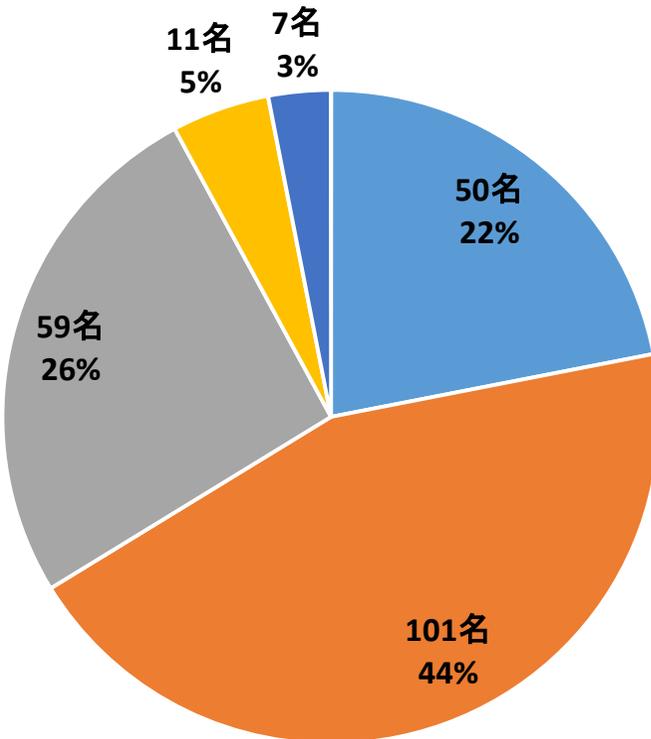
21)～23)は、全般的に「そう思う」の割合が高くなっているが、他の基本方針の項目に比べると「どちらでもない」が高い割合となっている。

(5) 本事業に採択されたことに伴い、本大学の男女共同参画が推進されたと思いますか。

男性 N=228

女性 N=118

回答しない N=21

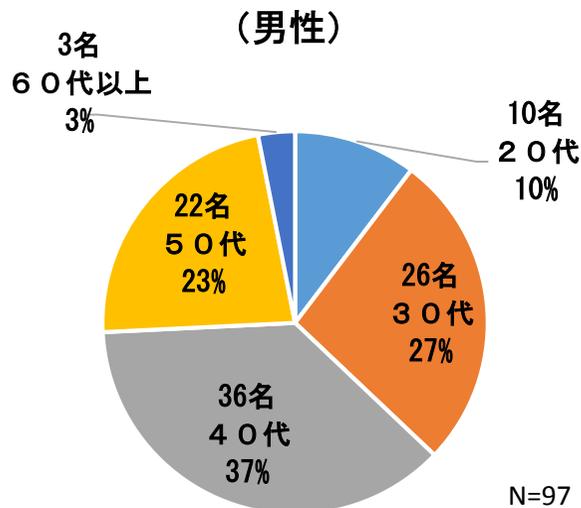


- 思う
- どちらかというと思う
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない
- 思わない

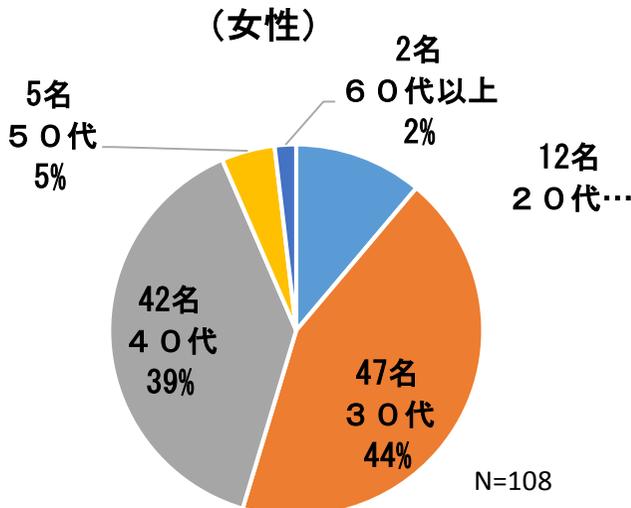
男女ともに、「思う」「どちらかというと思う」の割合が同程度で、2つ合わせると半数以上が「推進された」と思っていると回答している。

■年代

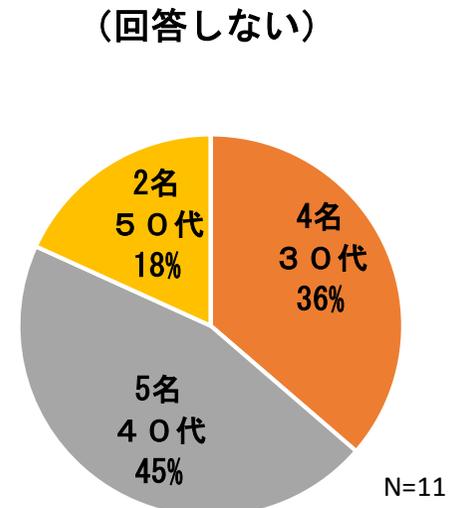
アンケート(職員まとめ) N=216名



40代の割合が高い

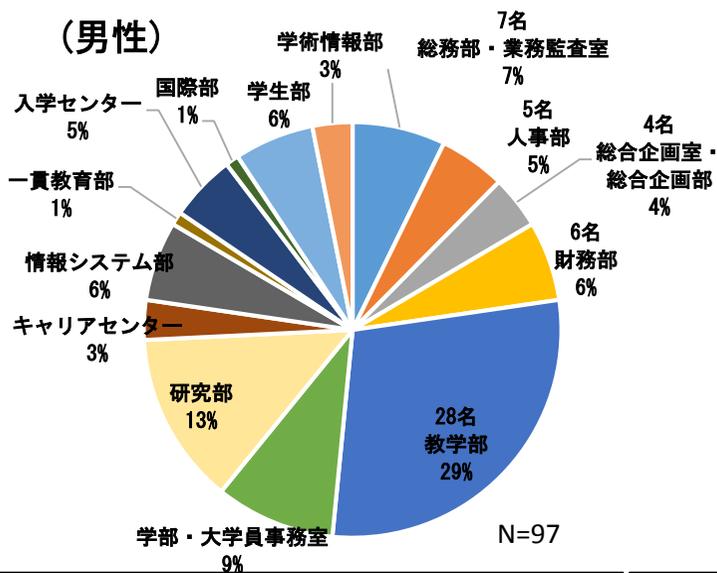


30代・40代の割合が大半を占めている

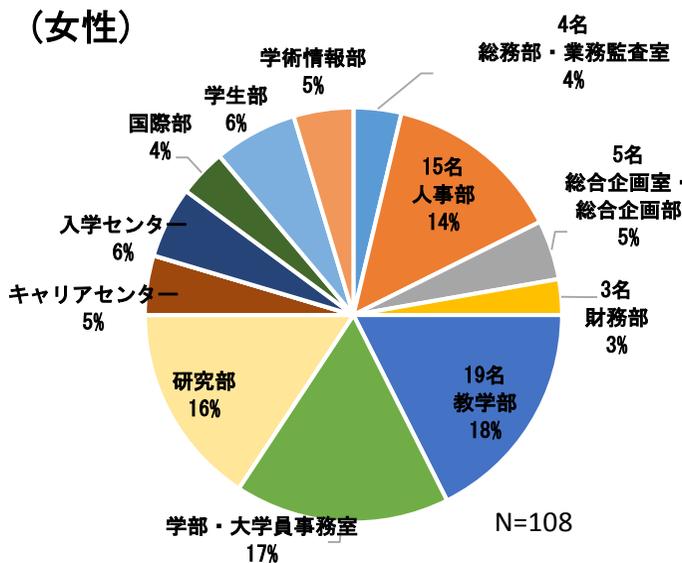


30代・40代の割合が大半を占めている

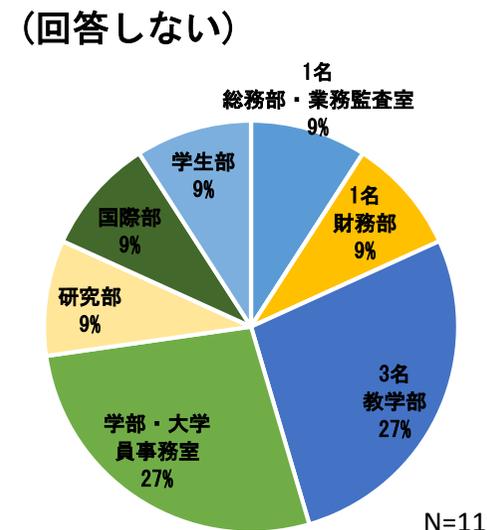
■部署



教育学部の割合が高く、次に研究部となっている

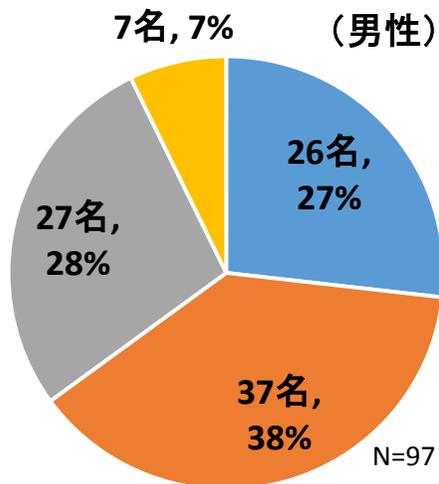


人事部、教育学部、学部・大学院事務室、研究部が同程度

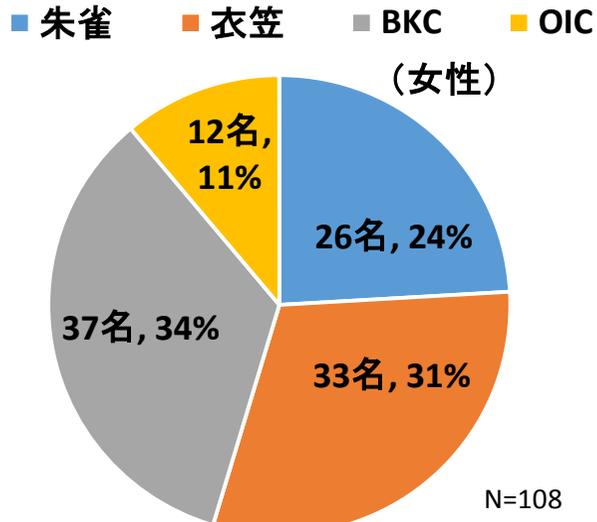


教育学部、学部・大学院事務室が同程度

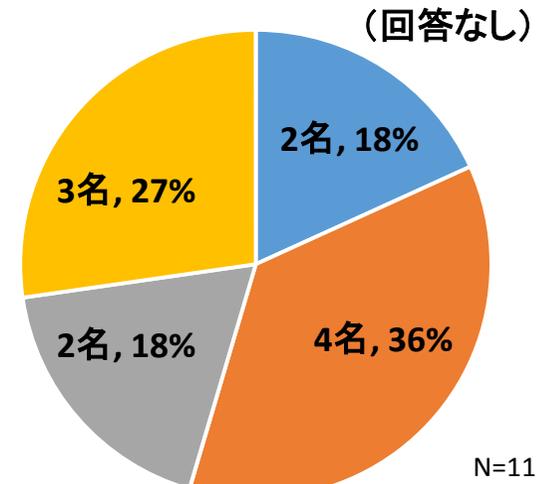
■ 所属キャンパス



衣笠が多数、BKC・朱雀が同程度

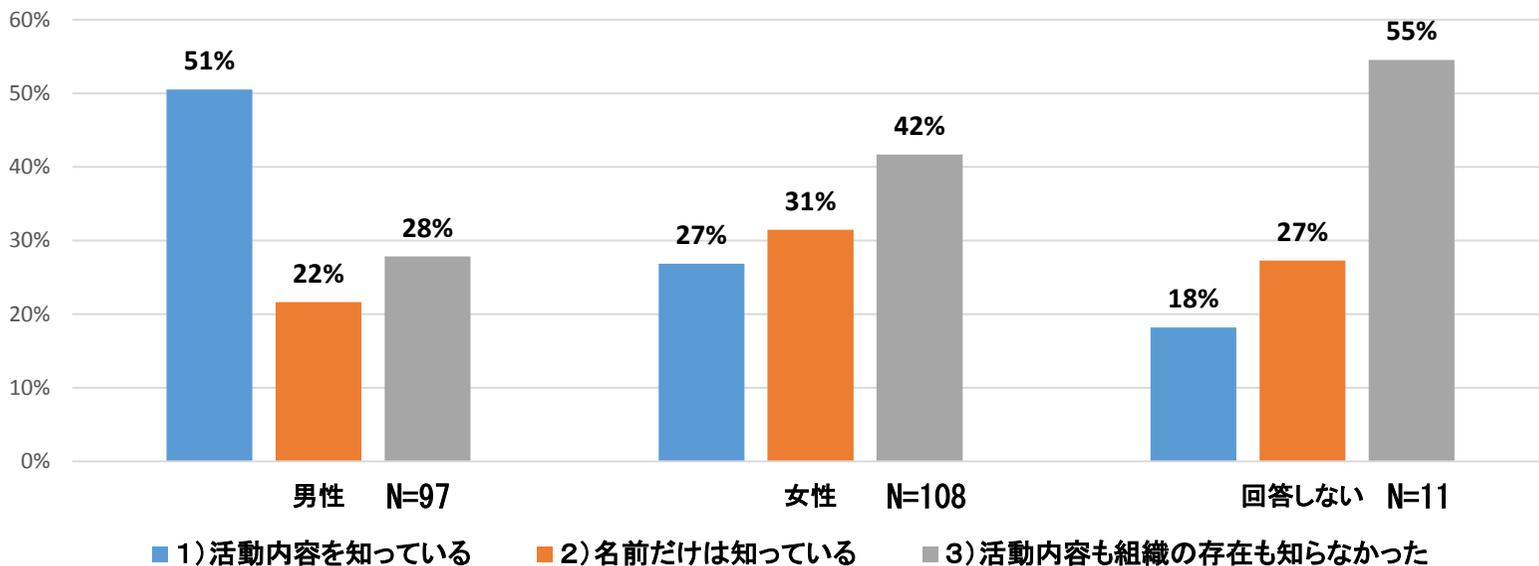


BKCが多数、続いて衣笠、朱雀、OIC



衣笠、OIC、BKC・朱雀が同数

(1) 立命館大学に男女共同参画を推進する「リサーチライフサポート室」があることについて、あなたはご存じでしたか？



男性は「活動内容を知っている」が半数。

女性・回答しないは「活動内容も組織の存在も知らなかった」の割合が一番高い。

現状では、女性教員の支援に焦点を当てているため、職員には認知度が低いことが考えられる。

(2) 立命館大学の男女共同参画推進に関わって、知っていたものに印をつけてください。(複数回答可)

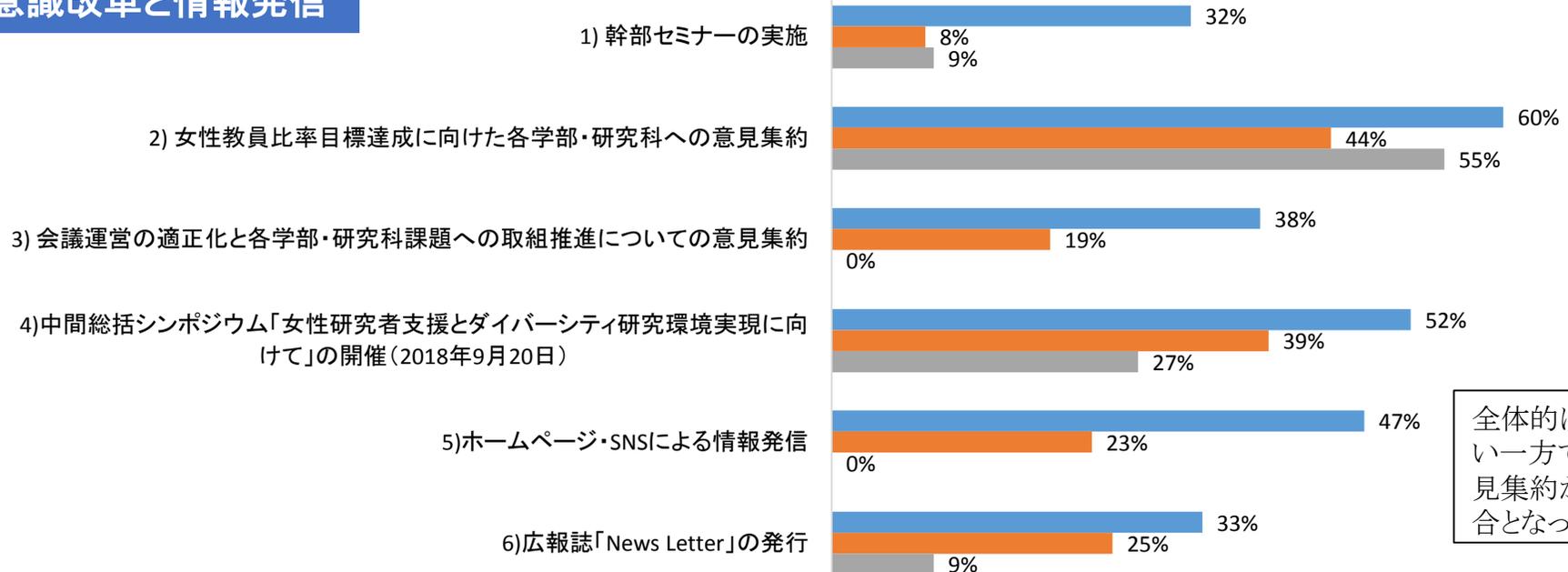
■ 男性 N=97
■ 女性 N=108
■ 回答しない N=11



1)~3)については、どの項目においても、男性の認知度が高くなっている。4)については、男女共に他の項目より高い認知度となっている。

(3) 立命館大学の男女共同参画推進事業について、知っていた場合は印をつけてください。

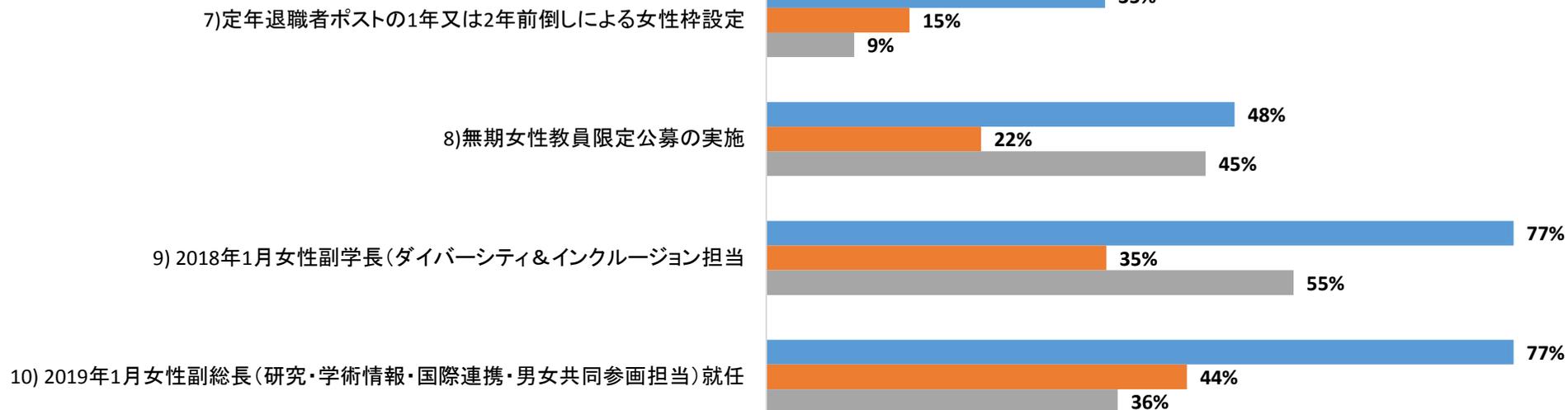
■ 意識改革と情報発信



全体的に認知度が低い一方で、2)第1回意見集約が最も高い割合となっている。

女性研究者の採用・上位職登用

■ 男性 ■ 女性 ■ 回答しない
 N=97 N=108 N=11



全般的に男性の認知度の方が高く、特に9)10)の割合が高くなっている。7)8)のポジティブアクションに関する女性の認知度は低い。

教育・研究と家庭生活との両立

11)「ライフイベントに関わる研究支援員制度」の導入



12) 衣笠・BKCへの学内保育所設置



13) 学内保育所の一時保育



14) ベビーシッター・ホームヘルパー利用補助



15) 臨時託児室



12)13)は男女回答しないどの層にも認知度が高い。教員対象支援に関しては、認知度が低い。

16) 研究費による学会・研究会等参加に伴う臨時的な「託児費用」の執行

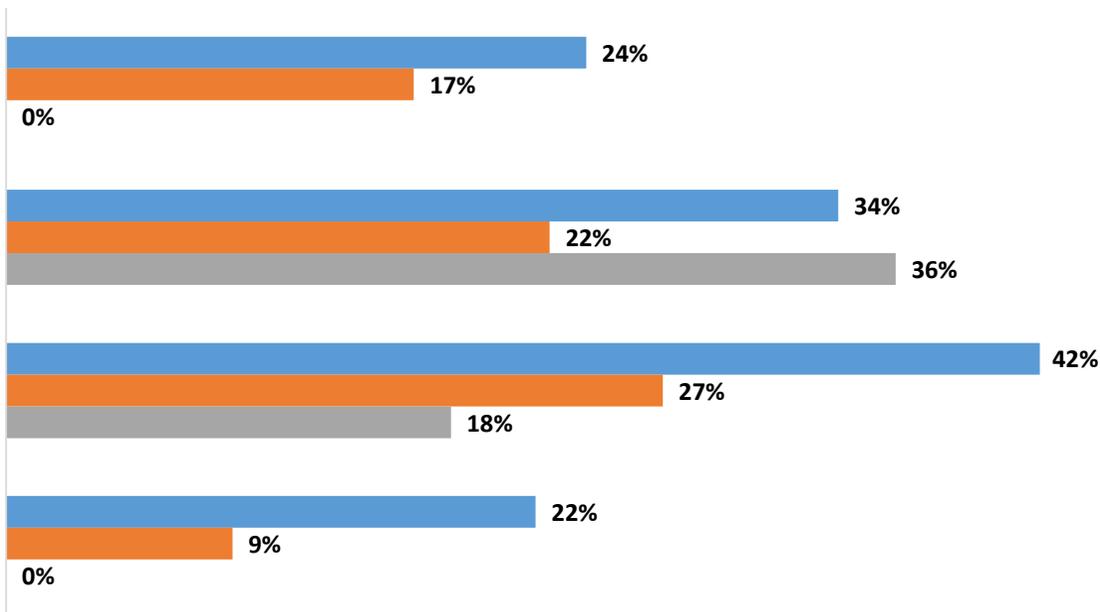


■教育・研究の推進と研究力の向上

■ 男性 N=97 ■ 女性 N=108 ■ 回答しない N=11

- 17) 新任教員サポート
- 18) 産前産後休暇、育児休業および介護休業中における研究費の取扱い
- 19) 学外研究制度(若手区分およびワークライフバランス区分)
- 20) 研究専念教員制度「自然科学系若手女性教員優先枠」の設定

全体的に男性の認知度の方が高い。

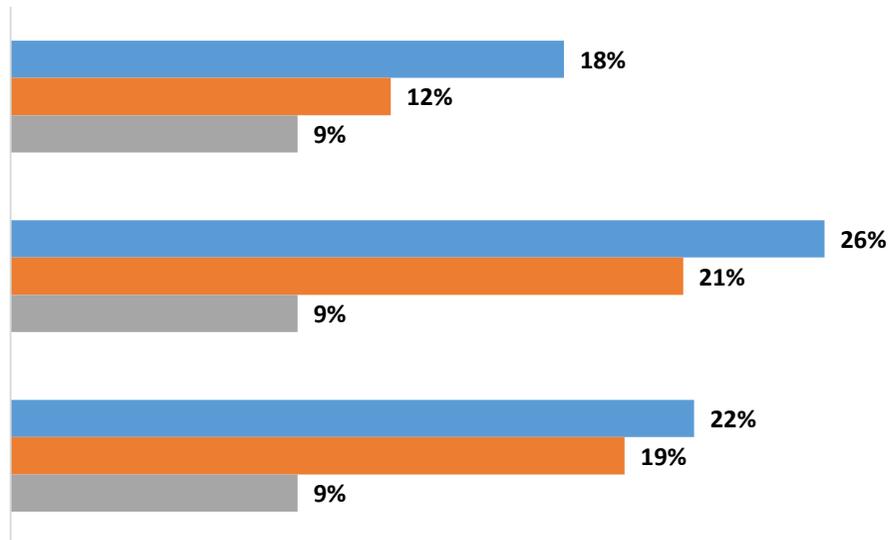


■女性研究者の裾野拡大

■ 男性 N=97 ■ 女性 N=108 ■ 回答しない N=11

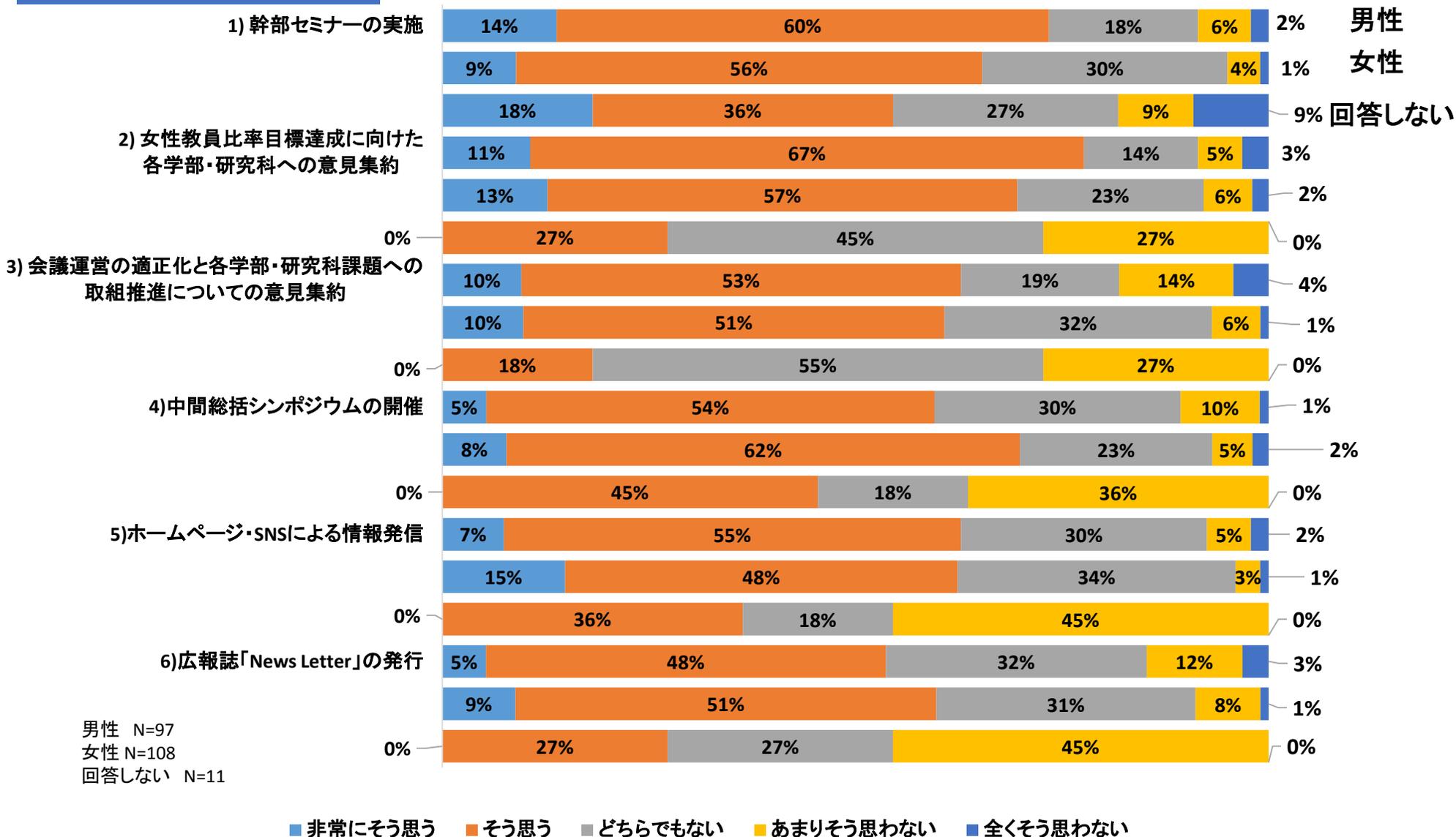
- 21) 交流の場「立命研究者の会」の開催
- 22) 「ライスボールセミナー」における女性研究者発表月間の設定
- 23) ロールモデル集「研究日和」刊行

全体的に認知度が低い。



(4) その事業が立命館大学における男女共同参画の意識向上に効果的かどうか、
あなたの意見に近い箇所に○をつけてください。

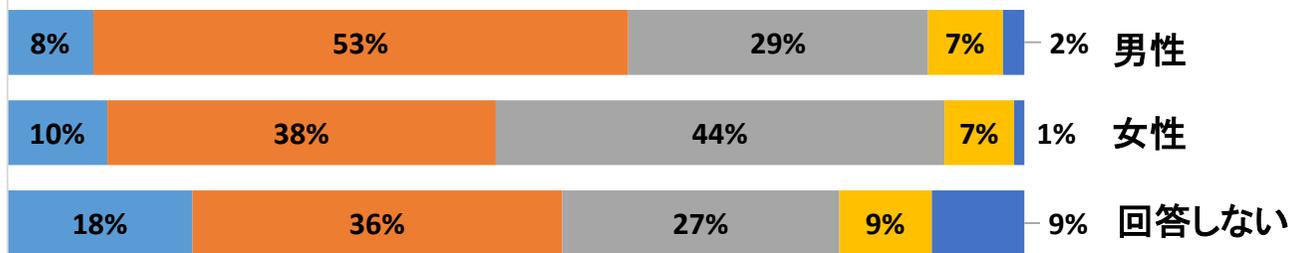
■ 意識改革と情報発信



どの項目においても、性別に関係なく、「そう思う」の割合が高い。

■女性研究者の採用・上位職登用

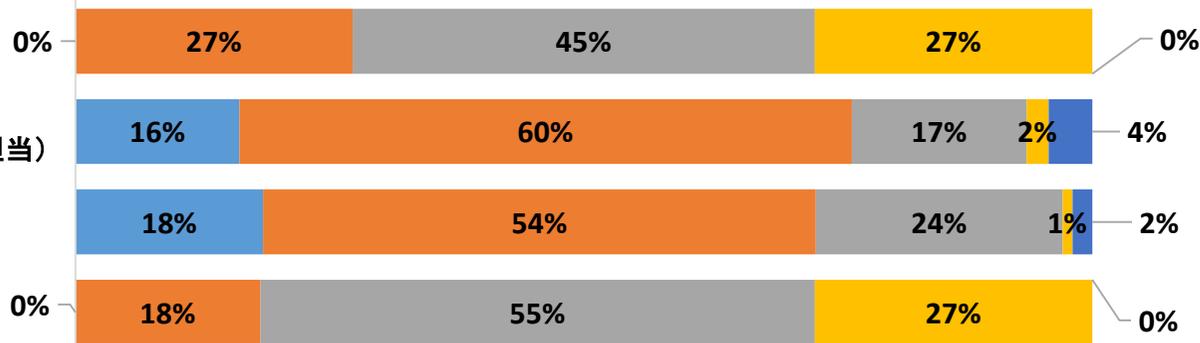
7) 定年退職者ポストの1年又は2年前倒しによる女性枠設定



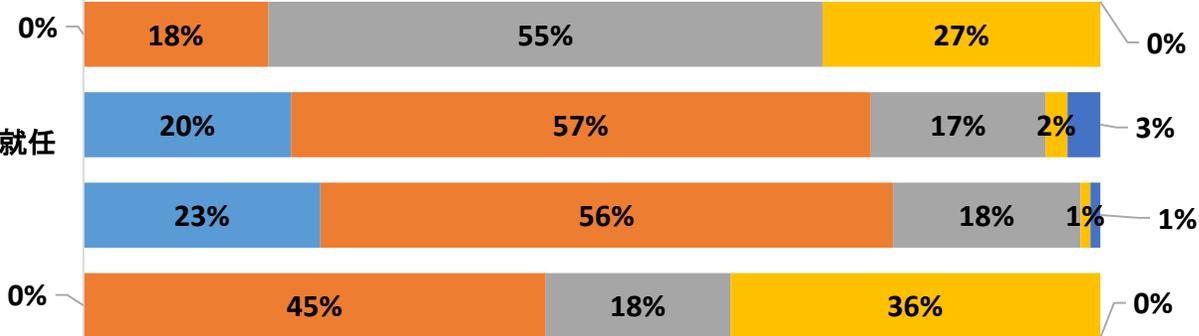
8) 無期女性教員限定公募の実施



9) 2018年1月女性副学長 (ダイバーシティ&インクルージョン担当)



10) 2019年1月女性副総長 (研究・学術情報・国際連携・男女共同参画担当) 就任



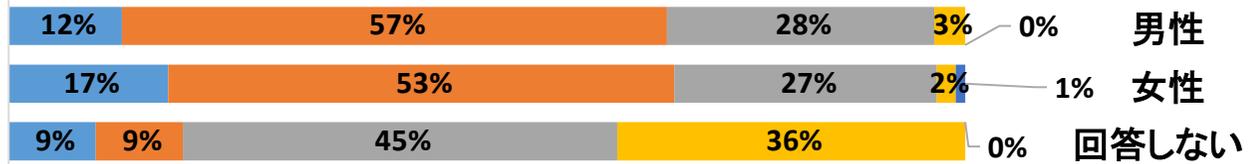
■ 非常にそう思う ■ そう思う ■ どちらでもない ■ あまりそう思わない ■ 全くそう思わない

男性 N=97
女性 N=108
回答しない N=11

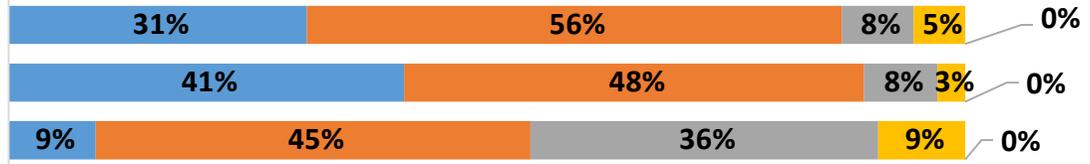
どの項目においても、性別に関係なく、「そう思う」の割合が高い。

■教育・研究と家庭生活との両立

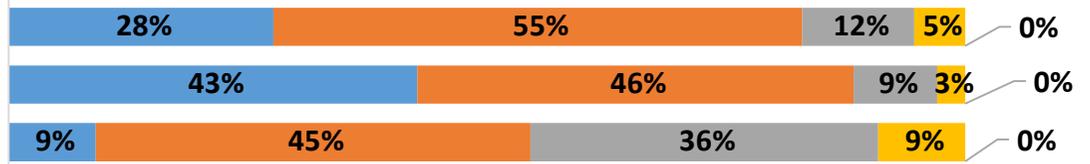
11) 「ライフイベントに関わる研究支援員制度」の導入



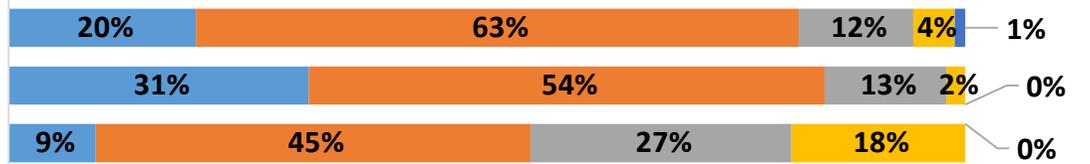
12) 衣笠・BKCへの学内保育所設置



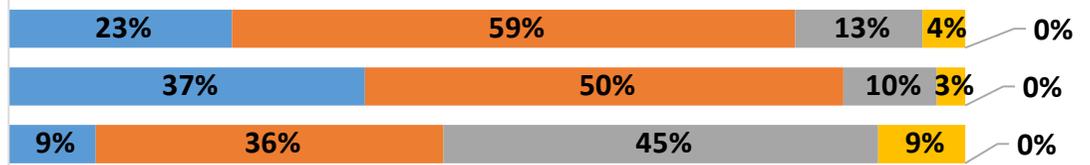
13) 学内保育所の一時保育



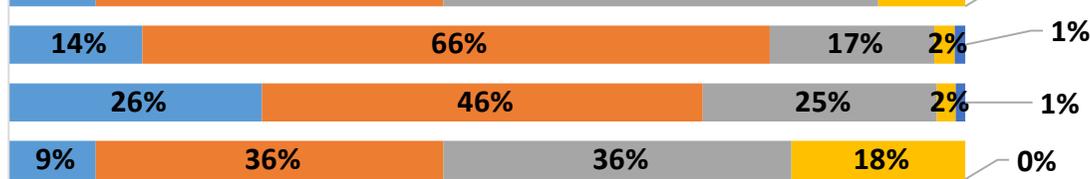
14) ベビーシッター・ホームヘルパー利用補助



15) 臨時託児室



16) 研究費による学会・研究会等参加に伴う
臨時的な「託児費用」の執行

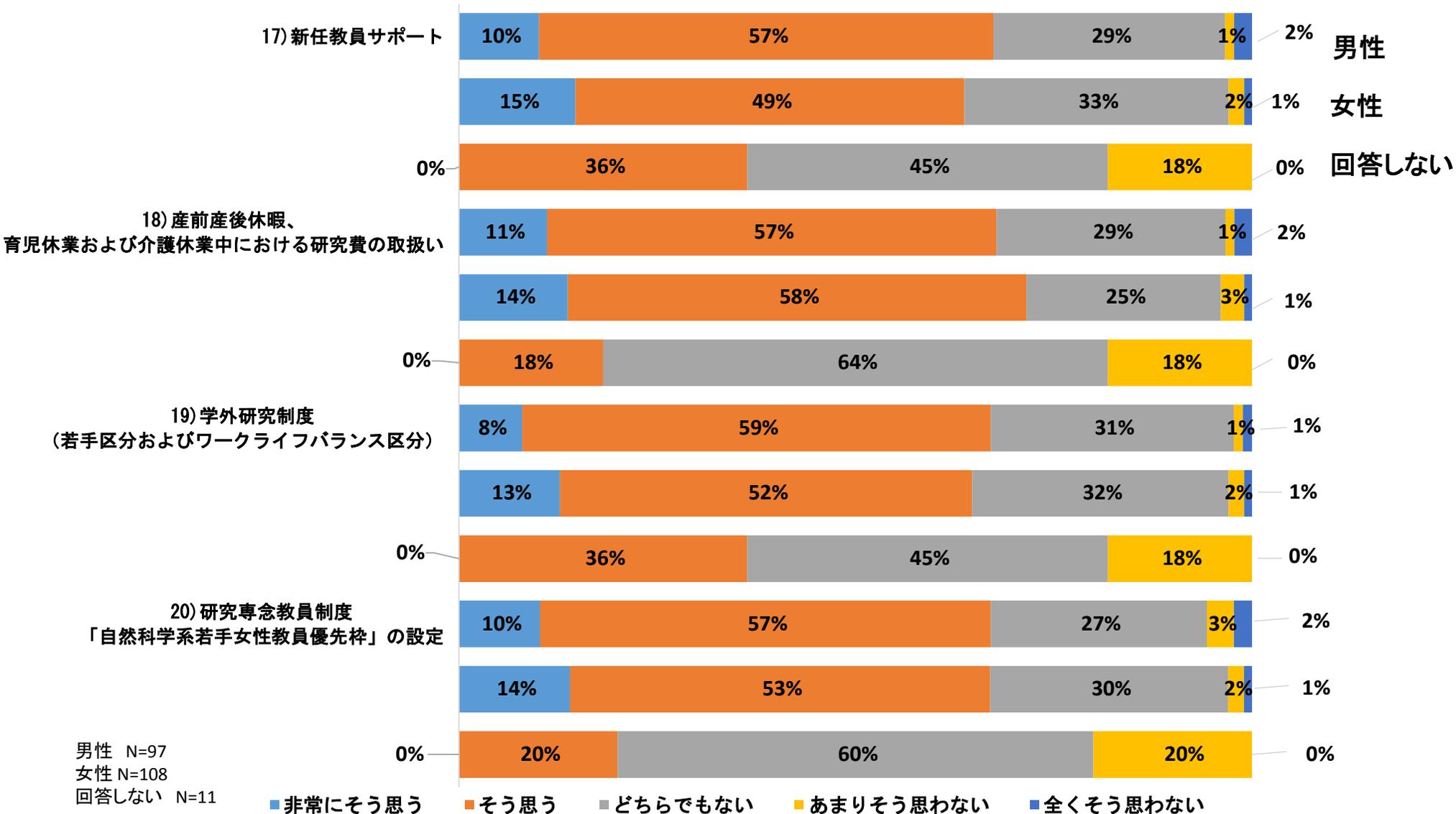


男性 N=97
女性 N=108
回答しない N=11

■非常にそう思う ■そう思う ■どちらでもない ■あまりそう思わない ■全くそう思わない

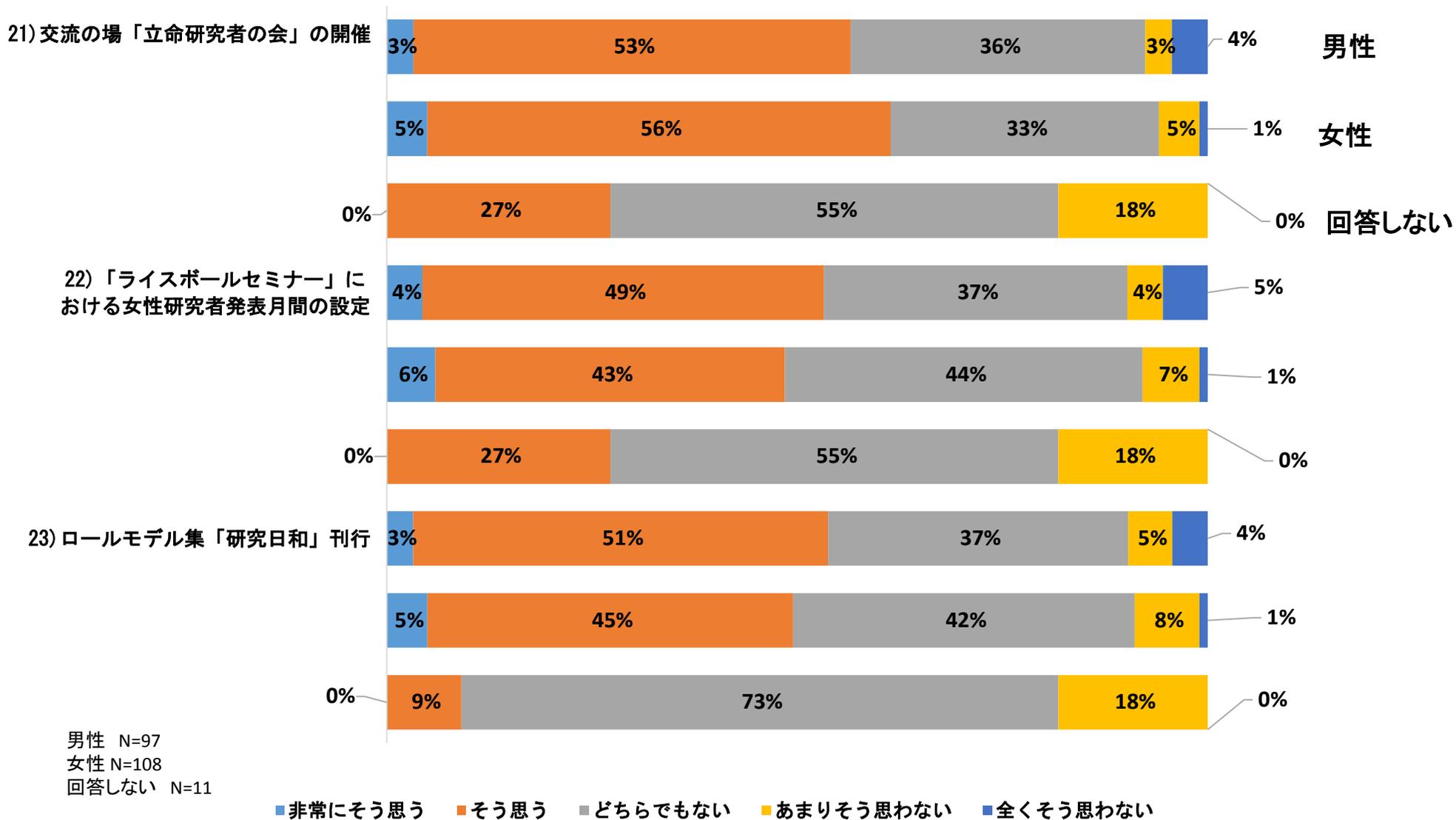
男女共に「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると、半数以上の割合となっている項目が多い。

■教育・研究の推進と研究力の向上



男女共に「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると、半数以上の割合となっている項目が多い。

■女性研究者の裾野拡大

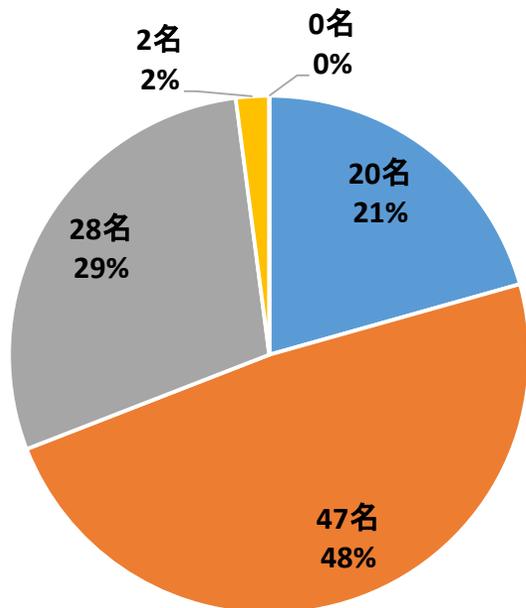


男性 N=97
 女性 N=108
 回答しない N=11

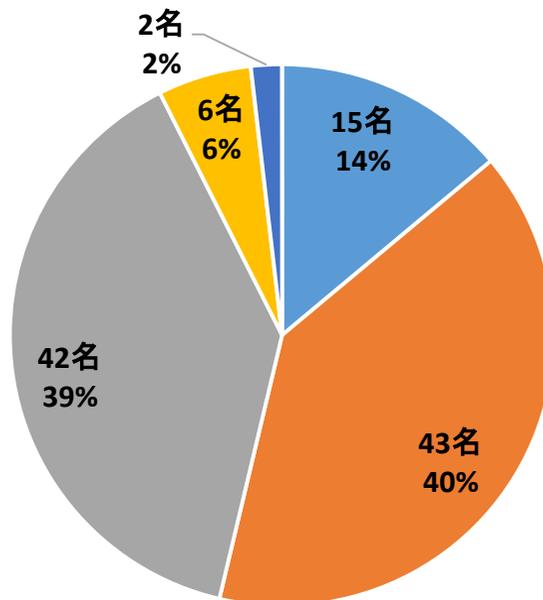
男女共に「非常にそう思う」の割合が一桁であり、「そう思う」が約半数、回答しないでは、「どちらでもない」と回答している割合が高い。

(5) 本事業に採択されたことに伴い、本大学の男女共同参画が推進されたと思いますか。

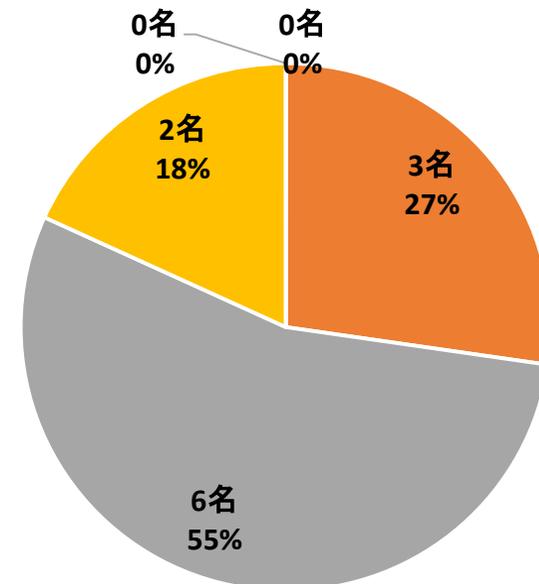
男性 N=97



女性 N=108



回答しない N=11



- 思う
- どちらかというと思う
- どちらともいえない
- どちらかというと思わない
- 思わない

男女共に半数以上が推進されたと回答している。女性は「どちらかというと思う」「どちらともいえない」と答えた割合と同程度。

アンケート分析による課題

- 認知度の低さは事業の評価も低くする
- 事業や取組をいかに正確に多くの構成員に知ってもらうかが課題である
- 評価が高い「仕事と家庭の両立支援」について、自由記述も踏まえると、さらに利用しやすい制度設計、対象児童の拡大（学童を含む）、OIC での学内保育所（ないしそれに準じた仕組み）も課題となる
- 認知度も評価も低かった「女性研究者の裾野拡大」について、取組の内容と質を深める必要がある
- 自由記述には、性別に関係なく仕事と家庭（育児・介護）の両立を支援すること、会議等の運営方法の改善、役職負担とその支援、セクシャルマイノリティ・外国籍の人・障がい者なども取り込んだ本格的なダイバーシティへの展開を指摘するものなどがあつた